

# 令和7年度 加東市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員:5名
- 2 認知症地域推進員の役割
  - ◆ 認知症の相談支援
  - ◆ 認知症の早期発見・早期支援
  - ◆ 認知症の人、その家族の居場所づくり
    - \* 認知症カフェ・絆カフェの支援
    - \* 若年性認知症の当事者・家族の会の活動支援
  - ◆ 地域における支援体制の強化
    - \* 認知症サポーターの養成講座
    - \* 認知症高齢者の見守り・SOSネットワークの構築

# 加東市 認知症施策全体図

本人・家族



わんわんパトロール



近隣住民



薬局

かかりつけ医

商店

地域包括支援センター

スーパー

初期集中支援チーム

コンビニ

介護サービス事業者

警察



社会福祉協議会

理美容院

物忘れ予防  
カフェ

金融機関

民生児童  
委員

認知症サポーター養成講座



ひとり外出見守り声  
かけ体験



どこシル伝言板

認知症高齢者・障がい者等 保護情報共有サービス

どこシル伝言板®

特許第6944237号

兵庫県  
加東市  
Kato City  
AA0000



兵庫県  
加東市  
Kato City  
AA0000



## 加東市における認知症初期集中支援チームの取組から 見えてきた課題とそれに対する取り組み

### 【介護サービスに繋がらない】

「まだまだ、そんなところには行かない」

「病院にはかかっているので大丈夫」

→本人が社会交流できる場の選択肢があるということが重要

\*本人が心地よく繋がれる社会資源（本人のリソース含む）

### 【認知症初期集中支援チームが浸透していない】

地域包括支援センターが高齢者の相談窓口であるということは浸透してきているが、認知症初期集中支援チームの周知不足は長年の課題となっている。

# R7年度認知症地域支援推進員研修の内容をヒントに

- ・一人の人にスポットをあてて伴走支援を実施
- ・「本人の声」を出発点に新たな認知症観に基づいて

## 【Aさんのプロフィール】

- ・70代女性 一人暮らし
- ・B事業所でチームで仕事をしている
- ・夫を見送り、自立心が強い
- ・「できるうちは働きたい」
- ・気丈で泣き言を言わない性格  
(娘さんより)
- 「私には介護サービスはまだ必要ない」

B事業所でチームで仕事をされる中、手順忘れや丁寧さの欠如が目立ち始める

チームのフォローが増えてくる

### B事業所で認知症サポーター養成講座を実施

仕事の日時がわからなくなり、問い合わせが増える  
大事な物をしまったところがわからなくなるが、取り繕う姿が増える

本人や家族から今までの生活歴を伺う。  
これから先も住み慣れた家で一人暮らしを続けたい

ついに仕事を辞める決心をし退職。  
仕事をやめてから「暇やわ〜」

本人の思いを、  
力を活かせる  
仕事の代替案は  
ないか？

# 認知症初期集中支援チーム & 認知症地域支援推進員のアプローチ

本人の声を起点に  
本人の「できる」  
を地域につなぐ

## 役割の再構築

〔 デイサービスでのボランティア活動  
かとうシニアいきいきポイント事業 〕

「仕事をやめて暇やわ〜」

(何かをしたいという  
意欲のシグナル)

## 【推進員・初期集中支援チーム・ボランティア先】

本人の思いを汲み、「本人のできる」を活かした仕組みづくり

- ・ 「ボランティアに来ないときにどうするか」の取り決め
- ・ 本人の尊厳を傷つけない伴走支援
- ・ 達成感・自己有用感の実感を大切に

## 健康と交流の維持

地域住民が集まる  
かとうまちかど体操

定期的に  
本人・ボラン  
ティア先に  
モニタリング

# Aさんの表情が語る変化

- ・不安
- ・カレンダーに書いていたのに・・・
- ・「しまった」という思い
- ・「仕事をやめてから暇」

ボランティア先で

「こんなに丁寧に頭を乾かしてもらったのは初めて」  
「ありがとう」

**テイサービス利用者さんの声がAさんの原動力に**

- ・無断欠席ゼロ 忘れることなく週2回 70回以上の参加
- ・いきいきポイント 5000ポイントを達成！
- ・スケジュール管理もばっちり

**笑顔が見られ、いきいきとした表情  
ボランティアの帰りに楽しみ（買い物や昼食）  
もセットに**

週2回のボランティア  
活動と週1回の地域の  
体操教室への参加

# 推進員は事業の実施者ではなく「本人と地域をつなぐ架け橋」である

認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チーム、その本人を取り巻く関係者や地域でチームとして本人の声を起点に、本人の力をリソースとして進めていくことが大切

## 地域の力

本人の声

推進員の役割：  
声を聞き、伝え、地域の力を引き出す  
(共創の仲間づくり)

行政

関係機関

住民

本人が望む暮らし  
本人が見ているまちの姿

地域でチームとしてつながっていくことで、関係者や市民の方に市の認知症施策が浸透していく